



無責任



絶叫が込められているひょうたんを

あつさり燃やす大河の反射

この星は僕らを乗せてどこへ行く

ひよっこり見えた銀河の出口

その穴は夢への扉絶望をさっぱり流す七時間半

(清水らくは)

露と落ち 半島

あれからまだ俺は
浅瀬にいる

水の表面に見とれながら
まだ
まるくなつたガラス片を
あきんどよろしく転がしている
瞼の上で、へその上で、肩の上で

言つてしまえば俺は
怖いのだ 不可能を可能にするのが
左腕をいからせて冷たい水をこじあけるのが

やつは魚を手紙だと言つたが
俺が握りつぶせば肉にもどる
ぐずぐずになつた断片から

にがいにがい胆汁が落日のようににじみだす

夢のまた夢 俺は
銀色の二次方程式を持っていた
あざみいろの磁石も持っていた

だが水は 肉は俺たちを忘れてくれない

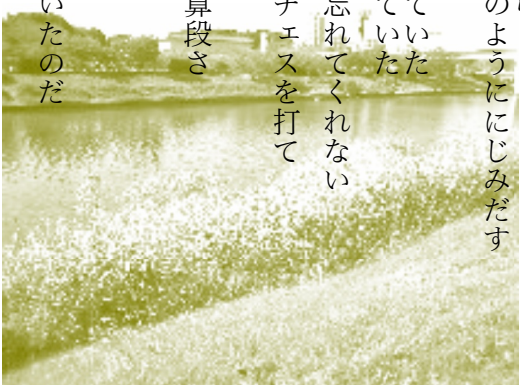
エタノールを駒に変え、チェスを打て

お前らのクイーンは

いきを吹きかければ
たちまち青く燃え上がる算段さ

そいつを俺は

俺は
俺は持っていた 持っていたのだ



『無責任』 第2号

責任者 清水らくは

副責任者 半島

連絡先 rakuha@hotmail.com

発行日 2012年4月1日